



TIAニュース



財団法人栃木県国際交流協会  
Tochigi International Association

# やあ!

2001  
MARCH  
No.72

3



▲トルコ第三の都市イズミーから東南へ250kmの地点にある「パムッカレ」。トルコ語で「綿の城」を意味するこの場所は壮大な石灰棚が小高い大地に広がり、温泉保養地となっている。石灰を含んだお湯が流れしており、これが流れ落ちるうちに、崖全体が結晶したのがパムッカレである。夕日が影を落とすころ、この白い台地がピンク色に変わり、やがて茜色に染まる様は幻想的な雰囲気を漂わせる。

青年海外協力隊帰国隊員による派遣国紹介  
シリーズ NO.20

## ボツワナ共和国

TIAホームページ

URL <http://www.pto.co.jp/tia/>

- ◆ J E T コーナー クリストファー・トムソンさん(オーストラリア出身)
- ◆ カメラルボ キッズ・インターナショナル・クラブ
- ◆ トピックス ▶ 南米から短期研修生が来県
- ◆ 企画展示室より ▶ フランス・ヴォークリューズ県に高校生が出発
- ◆ 國際交流団体紹介 オーストラリア人の見た北関東の13か月ほか
- ◆ レポート モンゴル交流協会ナイラムダル
- ▶ 栃木県の浙江省友好交流員帰国
- ▶ 平成12年度海外技術研修員帰国

# JETコーナー

クリストファー・トムソンさん  
(オーストラリア出身)



ビクトリア高校教育制度と日本の高校の教育制度には、大きな相違点があります。念のため、ビクトリアとはオーストラリア本土の南東部にある州です。

ビクトリア高校の教育制度についてのみ話が出来るのは、それぞれの州によって教育制度が違うからです。

日本の教育制度との大きな違いは、卒業の認定制度だと思います。ビクトリアでは、11年生と12年生の2年間で12科目をパスした者が、修了証書を授与されます。最終年の12年生の成績が大学等入学を左右する最終評価となります。(例えば、最終評価126点の生徒が、最低144点必要な行動科学の大学に進学することは不可能です。日本の大学入試とは違い、上記のように最終評価が大学入学の資格になり、まれに面接もあります。)

もう一つの違いは、クラブ活動(部活)です。例えば、オーストラリアでは、部員は週1回の練習と試合を行います。だから、日本の高校生が、学校で勉強し、その後、部活を週7回も行っているなんて信じられませんでした。まさにクラブ活動に関しては二国間に大きな違いがあります。

もちろん類似点もあります。両方の教育制度とも、学生が一生懸命勉強し、ベストをつくすよう促しています。外国语教育にも力を入れています。いちばん似ている点は、教育制度ではなく、その制度内にいる人々、特に学生たちです。学校内での友達関係をとても大切にし、お互いの文化(歴史や文化交流)に強い興味を持っていることです。また、同じような経験・過去があることを快く受入れます。

例えば、音楽(オーストラリアはカラオケは含まれませんが・・)、映画や特にスポーツなどです。オーストラリアと日本の学生たちは(世界中の学生と同じように)世界における自分たちの位置を探しつづけており、それは彼らが直面する最大の課題なのかもしれません。

「経験する」ために来日し、過去3年間日本で生活できたのは本当に素晴らしいことでした。

There are major differences and similarities between the Victoria High School Education system and the Japanese High School Education system. To clarify, Victoria is an Australian State located in the south east of the Australian mainland. I can only comment on the Victorian H.S. Education system, as each state has its own separate high school education system.

The major difference between the Victorian and the Japanese education system is, I believe, the process by which a student graduates high school. In Victoria the process is broken up into two years, the 11th and the 12th years. The Victorian Certificate of Education (VCE) requires the student to pass 12 subjects over this two-year period. The final year, the 12th year, the student's marks are tallied to produce a mark, which will be their final score. This score will determine what

university or higher learning course they will be able to undertake. (I.e. a student may want to study Behavioral Science at a particular university. However, the student received a total VCE mark of 126 and the cut off score for Behavioral Sciences at that university is 144. Therefore the student won't be able to take that course at that university. In Australia, unlike Japan, university undergraduate entrance is based upon final VCE score only and rarely an interview.)

Another difference between our two education systems is extracurricular activities (club activities). For example, an Australian school sporting team will train once a week and play a match once a week. I have never understood how a Japanese high school student is expected to study when they train, in some cases training 7 days a week. Japanese school activities are more varied than that of most Australian high schools.

There are many similarities as well. Both education systems expect the best from their students and the system encourages students to do their best. Both place emphasis on learning a foreign language. The biggest similarities however are not so much with the education system, but rather with the people within the system, especially the students. Both of our countries' students enjoy the relationships they make at school, both are interested in each other's cultures (history lessons, cultural exchanges). Both enjoy the same past times, such as music (in Australia - not Karaoke), movies and especially sport. Both Australian and Japanese students, and in fact students everywhere, are searching for a position for themselves in the world, which I believe, is the greatest challenge a student themselves face.

It has been a wonderful honor for me to spend the last three years in Japan. It has allowed me the opportunity to do just what I came here to do - experience.



をセットにしている。  
(特定非営利活動法人地球の友と歩む会/LIFE編)

## ●世界の国別地図

アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、アメリカ州、大洋州等の112の国と地域の



地図。地図は、国全体の地図のほか主要都市の市街地図もある。国道や高速道路、鉄道なども記載されているため、海外に行く人に役立つ情報も多い。また付録の地名リストで地名などが探しやすくなっていて便利だ。教材としても、海外旅行用としてもお勧めの地図である。

(GEO CENTERほか編集)

## ■TIAライブラリー案内■ (貸出のお問い合わせはTIAまで)

### ●参加型学習ですすめる12の国際理解教育教材

インドのスポーツを通して国際理解を深める教材、人の移動の歴史を通じて深めるもの、民族と異文化理解のシミュレーションゲーム、地球市民が共通に使える紙幣作り、ロールプレイングで、いろいろな国に交流員を派遣する教材など多彩。そのほか、子供たちが親しみやすい漫画で環境問題や南北問題等を考えさせる教材等、12の教材

# カメラルボ キッズ・インター ナショナルクラブ

平成13年1月25日開催

～外国の歌と遊び～

今回で3回目となる「キッズ・インター ナショナル・クラブ」。今年は1月25日に開催した。参加した約40人の子供たちは、いろいろな国から来ている外国人に、その国の言葉であいさつをしたり配られたビニール製の地球儀に、その国的位置を書き込んだり、また中国やザンビア、アメリカ、韓国、フランスの子供たちの遊びを楽しんだりした。



地球儀型ボールを持って、いざ挨拶！



外国人の人に国名を書いてもらって～



中国の歌（ジャオポンヨウ）を歌いながら友達をみつけていく遊び



ザンビアの遊び「タッチ」スタートからゴールまで鬼にタッチされないように走りぬくゲーム



アメリカの遊び「ダック・ダック・グース」。鬼が頭を触りながら「グース」といわれた者が鬼となり元の鬼を追いかける。円陣のまわりを逃げまわる鬼は、円陣に加わればセーフ。



フランスの遊び「悪魔のしっぽ」。赤と青に分かれでお互いのしっぽに見立てたハンカチを取り合う。ただし、自分の取られたら負け。最終的には取ったハンカチの数で競う。



韓国のお遊び「チエギ」を実際に作る。



みんなでチエギを蹴る。何回出来るかが勝負。



ブラジルの遊び「ペテカ」は手で遊ぶ。韓国のお遊び「チエギ」と似ている羽根つき遊び。

## TOPICS トピックス

### 南米から短期研修生が来県

栃木県から南米に移住した人々の子弟（高校生）を本県に招待し、両親や祖父母の生まれた国を知ってもらおうという「栃木県南米移住者子弟短期研修生受入れ事



▲協会理事長表敬



▲鹿沼東高校の体験通学に参加した南米短期研修生

業」が2月5日～2月21日までの3週間行われた。

今回の訪問団は、ペルー県人会の元県費留学生池田マリアクリスティーナさんを团长に、ブラジル・サンパウロ市から長安ジョゼーさん、グアラサイ市から坂本甫さん、パラーニー州から菅谷常智アルマンドさん、パラグアイ・フェルナンド・デ・ラ・モーラ市から高田稔さん、ペルー・リマ市から幅上たるみマリアナアストゥリさん等の5名の团员で構成。一行は鹿沼東高校での体験通学や親族宅へのホームステイのほか、益子町でのろくろ体验、日光湯元でのスキーパーク体验、宇都宮高校剣道部での部活動体验、東京と日光の视察等さまざまなプログラムに参加し、楽しい思い出を作って帰国した。

### 「先生のための国際理解教育実践セミナー」 に66名の小学校の先生が参加

小学校の先生を対象とした「先生のための国際理解教育実践セミナー」(TIA主催)が、平成13年2月22日(木)、とちぎ国際交流センターで実施され、県内66名の先生が参加した。

平成14年度から実施される「総合的な学習の時間」で実践できる内容として、外国のモノや国際理解のための教材等を使用した参加型学習方法、また、小学校で英語学習を行うときのポイント等を、参加者が実際に体験しながら学んだ。



▲インドネシアの影絵人形「ワヤン」を見る参加者

# ボツワナ共和国

# REPUBLIC OF BOTSWANA

アフリカ大陸南部の内陸国。面積は日本の約1.5倍。国土の大部分をカラハリ砂漠が占める。大陸性気候。

ダイヤモンド、ニッケル、銅、コバルト金などを産出し、輸出の大部分をダイヤモンドが占める。乾燥地域であるため、農業はふるわないが、牛、山羊、羊などの牧畜が行われている。

国名のボツワナは住民の大多数のツワナ族に由来し、「ツワナ族の国」の意味。

案内人

橋本 浩 さん(宇都宮市在住・36歳)



協力隊への応募は、仕事で行き詰まり、自分を見つけようとして。以前従事していた味噌会社の経験を生かせるということから、食品加工を希望。食品加工は募集の少ない職種。

1997年12月から1999年12月までの2年間、アフリカのボツワナ共和国の国の機関である食品技術研究所で、研究員として各種の食品の研究を行ってきた。

## 研究者としての毎日

▶農場での研修会



たべるということが多いです。

また、ドクターからキムチを作つてみろといわれ、キムチを作つたこともあります。研究所内はエリート集団といった感じで、ドクターが多かったです。この国の機関のトップはみんな外国人が占めています。この理由は簡単で、単にボツワナ人にはドクターがいなかつたということなのです。しかし、感触としては、研究をいろいろ重ねましたが、やってもやつても手応えがなかつたというのが私の感触でした。そのため、ある程度自分のやりたいことをやってそれを成果として残してきたという部分があります。

現地派遣の協力隊の仲間で、農業関連の研究会も作りました。また、農場の協力隊員が2人いたため、農民のための研修会を開いたこともあります。ボツワナの農民は一般に外の事を知らないため、こういう研修会を開いて、外ではこのようなことをしているということを情報として取り入れさせて、刺激剤としました。また、外国人が入っている農場での研究会も行いました。大きな農場1か所を会場として、約40名前後で大型バス1台、マイクロバス1台の計2台を借りて、農場の見学をしたわけ

ですが実際には、隊員支援経費が得られなかつたため、バスは農業省から借り、ドライバーも農業省にお願いしました。見学させてもらった農場の庭先で、温野菜のサラダや味噌汁を作つたりして、意外と好評でしたが、キムチだけは現地の人々に不評でした。理由は、生のニンニクが駄目ということと、野菜の発酵が駄目ということでした。ボツワナは砂漠が多いため農業には向いていません。しかし、牧畜は盛んで、牛肉は主にヨーロッパ方面に輸出され、山羊は国内用として飼育されています。

## 主食はどうもろこしが主流

ボツワナの主食はトウモロコシですが、粒が小さくて赤い皮が付いている1粒約5mm程度のものは「ソルダム」と呼ばれ、粉にして、鍋の中で水を加えながら、加熱し、マッシュポテトのように固めのペーストにして食べます。また「メイズ」と呼ばれるとうもろこしは、そのまま粉にして調理して食べます。こちらの方がポピュラーなものとされています。ほかに日本と同じように米を食べる人もいます。

◀首都の街並み



◀ボツワナの北部の湿地帯（ホカバンゴ）





以前アンケートを取った結果では、年齢層の高い人はメイズやソルダムを食べますが、若い人は米を食べます。しかし、米は100%輸入に頼っています。ボツワナの有名な料理に「セスワー」という汁気の多い煮込みがあります。お祭りや結婚式などのお祝い事があって人が大勢集まるときに食べるもので、牛肉を塩と水だけで鉄鍋で煮たものです。普段は牛肉や山羊のシチューが多いです。またフライドチキンなどもよく好んで食べられています。また、にわとりもよく食べ、ゆで卵やオムレツも食べられています。日本のように生活習慣のサイクルが決まっているわけではないので、朝、昼、晩ということではなくて、食べたいときに食べるという感じです。



一般的なランチメニュー

### 宗教はキリスト教

ボツワナは、11月の末から翌年の4月までは雨期で、気温は38度ぐらいになる日が続きます。7月末は乾季の最も寒い時期でマイナス5度から30度まで温度が下がり、毎朝霜があります。砂漠が多いため乾燥していますが、北部の方は、じめじめした地域となっています。

宗教はキリスト教が入っているため、アフリカの他の国に多いお祭りといつ行事は少なくて、独立記念日ぐらいしかありません。この日は軍隊がパレードを行い、軍や村の中で、踊りの大会を行ったりします。

ボツワナは平和な国で、独立戦争もありませんでした。もともとイギリスの保

### データ



青地の中央に細く白い条にはさまれた黒い横帯。晴れわたる青空と貴重な水を青で、国民の大部分をしめる黒人を黒で、白い条は少数の白人を表し、両者の協力を示す。1966年制定。

護領でした。独立のきっかけは、ボツワナの長老が自ら、本国のイギリスに1966年9月30日に独立のお願いに行き、その時の長老が後の最初の大統領となりました。

市内には大きなショッピングモールが5カ所ありますが、他のアフリカの国々にあるようなマーケットは存在しません。モールのまわりに露店がある程度です。

ボツワナは就労人口の6割が公務員で、国と宝石会社で有名な「デビアス」が合弁会社を作り、そこで得た収入を公務員の給料としています。この国の主な輸出品目はダイアモンドで、75% 輸出されています。

### ボツワナ共和国

①面積	582,000km <sup>2</sup>
②人口	157万人(98年)
③首都	ハボローネ
④主要言語	英語、ツワナ語
⑤民族構成	バンツー系ツワナ族が大部分。
⑥宗教	大部分が伝統宗教ほかにキリスト教
⑦通貨	ボラ
⑧元首	大統領
⑨その他	協力隊員の派遣数135人 栃木県からは2人

(2001年3月現在)

## TIA企画展示室より

### オーストラリア人の見た 北関東の13か月 ～ローランド・スマール展～

2月3日から17日までの2週間、とちぎ国際交流センターの企画展示室で、栃木県を中心に北関東の建物や風景を描いた絵画展が開かれました。展示された26点を描いたのは、オーストラリアのタスマニア島から来たローランド・スマール氏。オープニング・セレモニーでは会場に来られた方々にタスマニア特産のワインとチーズが振るまわ

れました。もともと大学で建築を専攻していたということで、日本の独特な建築物に興味を抱いてスケッチをし、それをアクリル画にしたそうです。帰国前に、滞在していた13か月の間に描いた絵画を是非皆さんに



ローランド・スマール氏  
の絵画展

見てもらおうと、この絵画展を開いたもの。建物とか杉の大木など、描かれた絵は自分の目の高さから描いたものです。人によって見る位置や見方は違うので、自分なりの視点から見て共通点を引き出してくれたらと話していました。

現在、企画展示室では、3月31日まで、アジアの漫画や絵本を集めた「アジアの漫画・絵本展」を開催していますので、こちらの方もどうぞご覧ください。



# 国際交流団体紹介

## モンゴル友好協会ナイラムダル

私たち、モンゴルの文化を身近に紹介したいと、1992年から毎年“ナイラムダル(友好)コンサート”を延べ188公演、そのうち「次世代を担う子供たちの国際交流を」と、小、中学校、養護学校など71公演をしてきました。栃木県内では、小学校を中心にコンサート24公演、展示会5回、モンゴル紹介授業7回、展示物貸出15校など行っています。これまでモンゴルは遠い存在でしたが、最近、大自然の中で生活する遊牧民が紹介され、私たちが忘れてきている大自然のすばらしさを讃え、両親を慕うなどの文化があります。またモンゴルは、「心のふるさと」のような親しみを持った人が少なくありません。小学校ではモンゴルの民族楽器“馬頭琴”的民話「スホの白い馬」を学ぶこともあります。そんなことから子供たちは、モンゴルや民族楽器

“馬頭琴”的音色に関心を持っていますし、興味を引かれる国になってきています。

私たちは、「コンサート」や「モンゴル紹介授業」などを通じて、モンゴルの生活・文化の一端を紹介しています。子供たちは「モンゴルの子供は、どんな勉強をしているの」「どんな家に住んでいるの」「何を食べているの」「どんな遊びをしているの」など興味を膨らませています。ぜひ、交流するなかで、子供たちの心のなかに、私たち日本とはちがった文化や習慣をもった人達が身近になり、お互いに学びあう国際人へのきっかけになればと思います。

あわせて、モンゴルは10年前から資本主義経済に移行して、大量の失業者が発生し、明日の生活を追われ、ストリートチルドレンも生まれてきています。以前の心のゆとりは消えつつあります。私たちの日常生活を振り返りながら考えていければと思います。



▲小学校でのコンサート

ドレンも生まれてきています。以前の心のゆとりは消えつつあります。私たちの日常生活を振り返りながら考えていけばと思います。

### <主な事業>

- 1.モンゴル民族音楽コンサート
- 2.モンゴル紹介授業
- 3.モンゴル紹介「写真パネル」「子どもの絵」などの貸出し
- 4.展示会/写真、子どもの絵、民族楽器、民具、民族服試着など
- 5.交流の旅/遊牧民ゲル訪問、草原での乗馬。遊牧民ゲル・ステイなど。
- 6.通信「モンゴルからの風」/季刊A5版 24ページ。

### 〔連絡先〕

〒321-2345

栃木県今市市木和田島1526-152

モンゴル協会ナイラムダル 代表大島武行

☎0288-26-0136

(電子メール)

nairamgo@d6.dion.ne.jp

(ホームページアドレス)

<http://www.d6.dion.ne.jp/~nairamgo>

## レポート

### 栃木県の浙江省友好交流員帰国

栃木県と友好交流を行っている中国浙江省の浙江大学に昨年9月から半年間派遣され、語学や中国文化を学んでいた本年度の「友好交流員」3名が、研修を終えて無事帰国した。この派遣事業は平成6年度から始まり、本年度で7回目となる。

友好交流員のひとり、鈴木康子さんは、1月中旬の最終試験の後、中国国内を旅行して来たとのこと。行く前にガイドブックを見て、持つて行った方がいいと書かれてあった物を持って行ったところ、ほとんど現地調達でき、中国の発展の速さにびっくりしたそうだ。また、日本で学んでいた太極拳を浙江省で上達させたいと考えていた越川学さんは、中国では太極拳をやっている人は日本で想像していたほど多くはなく、独学で練習したという。たまたま、彼の所属していた団体の訓練が福建省で正月休みに行われたということで、そちらにも参加し、運良く、中国の武術師の先生からいろいろ指導を受けられたとのこと。彼らは、浙江省に行く前はあまり中国語が流暢

ではなかったが、ペラペラになって帰ってきた。ただ、浙江大学の彼らの宿舎と日本語学科の学生の宿舎が離れていたため、お互い相手国の言葉を学ぶ学生同士の交流があまりもてなかかったのは、少し残念だったという。

今後は中国で学んだ語学力を生かして、友好交流員として栃木県と浙江省の行う友好交流事業に協力していくことになる。今後の活躍に期待する。



▲3名の友好交流員（中国・浙江省で）

### 平成12年度

### 栃木県海外技術研修員が帰国

平成12年6月5日に入国来県し、10か月間、日本語やそれぞれの専門分野の研修を県内の各研修機関で行ってきた海外技術研修員10名が、日本でのたくさんの思い出を作つてそれぞれの国へ帰国した。彼らが今後母国において、日本で学んだ技術などを生かし、新しい人材の育成に取り組むなどして母国の発展に貢献するとともに、本県との交流の掛け橋となることを願っている。



▲平成12年度研修員

# 情報発信 地域の国際交流案内

## ★平成13年度夏期短期派遣プログラム

オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・タイ・アメリカ・アイルランドのそれぞれの国で、ホームステイしながら地元の高校あるいは専門施設でその国の言葉や文化を学びます。

▶応募資格・人数・期間=オーストラリア(80人)・高校生・7/20(金)~8/26(日) ニュージーランド(50人)・高校生・7/21(土)~8/20(月)、カナダ(英語研修15人・仏語研修8人)・高校生・7/21(土)~8/2(月)、タイ(10人)・高校生または大学生・7/21(土)~8/17(金)、アメリカ(15人)・大学生および大学院生・7/29(日)~8/20(月)、アイルランド(7人)・大学生および社会人(60歳まで)▶募集期間=2000年2月1日(月)~4月27日(金)(必着)▶資料請求および問い合わせ先=財団法人エイ・エフ・エス日本協会〒105-0001 東京都港区虎ノ門5森ビル6F TEL:03-5251-0171(代表) FAX:03-5251-0177

## ★第14回ミス&ミセスのためのホームステイ

'93年春発表以来、好評を博し、マスコミでも大変話題になったこのプログラムは、社会の最小単位である家庭=ホームで生活体験をしながら、その国の教育・文化・福祉・環境の実情に接し、人と人とのふれあいの場を拓げる、楽しみながらも有意義な研修旅行。今回はヨーロッパ二か国とカナダを計画。異文化体験が体験できる。

▶参加対象=20~68歳の女性で、積極性・

協性を持ち心身共に健康な方。▶募集人員=各コース18名(最少催行人員10名)▶申込み締切日=2001年4月5日(木)(先着順)▶各コース期間=①ブリティッシュウェイオブライフ11日間(2001年5月15日(火)~5月25日(金))②カナディアンウェイオブライフ10日間(2001年5月30日(水)~6月8日(金))③スイスウェイオブライフ11日間(2001年5月15日(火)~5月25日(金))▶お問い合わせおよび申込み=社団法人日本国際生活体験協会(EIL)〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-3 平河町伏見3F TEL:03-3261-3451 FAX:03-3261-9148 EMAIL アドレス eil-japan@mug.biglobe.ne.jp

## ★2001年度バーマカルチャ塾

自然環境を考慮した適切な土地の利用や生態系の働きを学び、永続的な(permanent)農業および文化(agriculture/culture)を築くバーマカルチャーの年間コース。

バーマカルチャー・デザイン・コース、バーマカルチャー実習コース、BASIC コースがある。▶問い合わせ先=バーマカルチャー・センター・ジャパン〒199-0206 神奈川県津久井郡藤野町牧野1653 TEL:0426-89-2088 FAX:0426-89-2224 eMAIL:ye6k-str@asahi-net.or.jp

## ★第84回TOEIC 定期公開テスト

TOEICは年7回全国61都市で行われています。▶試験日=2001年5月27日(日)▶申込期間=2月1日(木)~4月18日(水)▶受験票未着受付時間=5月21日(月)~25日(金)▶結果発送予定日=6月26日(火)▶受験資格=制限なし▶受験料=6,615円(消費税5%含む)一度納入された受験料はお返しません。▶問い合わせ先および受験申込書請求先=財団法人国際ビ

ジネスコミュニケーション協会TOEIC 運営委員会東京業務センター 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2山王グランドビル TEL:03-3581-4701 FAX:03-3581-4771 フリーダイヤル 0120-40-1019 (24時間案内) 受験票未着問い合わせ電話(受験票未着問い合わせ期間内の祝日を除く9:30~17:00のみ) 03-5521-5909 オンライン申込みも受付中。https://sp.toeic.or.jp オンライン申込み実施期間=3月6日(火)~4月19日(木)昼12:00まで。

## TIA日誌

2001年1月1日~2001年2月28日

- 1/14 国連英語検定第2次試験(センター)  
1/22 「TIA ニュース‘やあ!’on TV’(とちぎテレビ放映)  
1/24 海外移住家族会関東甲信越静プロック会議(宇都宮市)  
1/26 フランス派遣高校生第1回研修会(センター)  
1/27 キッズ・インターナショナル・クラブ(センター)  
親子でみてね映画会(センター)  
2/2 宇大付属中学生・星が丘中学生センター訪問  
2/5 南米短期高校生受入れ(～21日)  
2/16 県費留学生・研修員・南米短期研修生スキー教室(日光湯元)  
2/20 浙江省定期協議団受入れ(～26日)  
2/22 先生のための国際理解教育実践セミナー(センター)  
2/24 フランス派遣高校生第2回研修会  
2/25 青年海外協力隊派遣隊員家族懇談会(センター)



## 国産第1号機の実績と信用



情報マシンとシステム販売

**栃木システム販売株式会社**

代表取締役 大 金 幸 司

本 社 〒321-0933 宇 都 宮 市 築 瀬 町 1 7 8 5  
電 話 (028) 637-1933(代) FAX (028) 634-4191

## 印刷からテレビCM制作まで



必要なときに必要なだけ オンデマンド印刷機

インターネットのホームページ制作は当社へ!  
**株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷**

〒321-0904 宇都宮市陽東5丁目9番21号  
TEL 028-662-2511(代) FAX 028-662-4278  
URL: http://www.pto.co.jp/ E-mail: pto@mx1.alpha-web.ne.jp

# TIA Information Corner

## 知ってて得する なんでもQ&A

Q. 海外にペットを連れて行きたいのですが？

A. 動物を海外に連れていく場合、原則として日本では輸出検疫と通関手続きが必要となります。動物の種類や相手国によって入国が認められることもありますので、事前に相手国の大天使館などで確認しておくと良いでしょう。

日本での輸出検疫（検疫義務づけられてない動物もある）については、最寄りの動物検疫所まで。なお、連れていく方法は、機内持ち込み、手荷物扱い、貨物扱いの三種類で、動物の種類や大きさで異なりますから事前に利用する航空会社に問い合わせてください。

成田検疫所（第二旅客ターミナルビル内）  
TEL0476-34-2310

### ★P I E E 高校生私費留学プログラム

このプログラムは日本の高校生を対象とした英語圏6か国（アメリカ・カナダ・イギリス・アイルランド・オーストラリア・ニュージーランド）の公・私立高等学校への留学プログラムで、一年間から卒業資格の取得までの支援を行っています。▶留学国=アメリカ合衆国、カナダ、イギリス、アイルランド、オーストラリア、ニュージーランド ▶期間=1年間あるいは複数年 ▶出発時期=アメリカ、カナダ、イギリス、アイルランド-7月あるいは8月、オーストラ

リア、ニュージーランド-1月あるいは2月▶応募資格=高校在学生、中学卒業者または中学卒業見込みのある方で、19歳未満の健康明るい方。▶応募方法=選考試験による方法（英語筆記テスト、日本語基礎学力テスト、保護者同伴の面接）▶受験料=20,000円▶申込みおよび問い合わせ先=国際教育交流協会（P I E E ）〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7 紀尾井町TBR1015 TEL:03-3263-1292 FAX:03-3221-1393 EMAIL:piee@piee.gr.jp

### ★2001年スタディーツアー

▶実施国=スリランカ（5月中旬・サルボダヤ、プロジェクト見学）、ベトナム（6月中旬・幼稚園訪問、交流）、タイ（7月上旬・教育プロジェクト視察）、中国（9月30日（日）～10月6日（土）・植林プロジェクト視察）、インド（10月中旬～下旬・タージマハール見学、女性自立支援プロジェクト見学）、バングラデシュ（11月16日（金）～11月23日（金）・プロジェクト視察、交流、ホームステイ）、カンボジア（12月1日（土）～12月8日（土）・カンボジア野歴史に触れる旅、農村見学、交流）▶参加対象=▶アジア協会アジア友の会会員で、心身ともに健康な男女、アジアの農村になじむことの出来る順応性ある方、団体行動における協調性のある方、未会員の方は申込みに手続きが必要です。▶申込方法=参加申込書に必要事項記入の上、申込金（3万円）、会費（会員になってない方のみ）を添えて、事務局まで持参かまたは、現金書留で、事務局宛にお送りください。▶締切りおよび定員=各コース定員15名です。航空券取得都合のため、1か月前に締め切らせ

ていただきますが、締切り後も人数に余裕のある場合は受け付けます。▶参加費支払い方法=申込金（3万円）は、参加費用に含まれます。残金は出発日の3週間前までに振り込んでください。▶申込み・お問い合わせ=（社）アジア協会アジア友の会〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-16大一ビル4F TEL: 06-6444-0587 FAX: 06-6444-0581 EMAIL:jafs@bekkoame.ne.jp（地下鉄四ツ橋線肥後橋駅下車1-B 出口よりすぐ／地下鉄御堂筋線淀屋橋駅4号出口徒歩6分）

## TIA 賛助会員募集中！

賛助会員になりますと、TIA の機関紙、各種刊行物、催事情報等が受けられます。またテレビ方式変換ビデオ（海外→日本、日本→海外）をご利用できます。その他会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円。

※賛助会費と出捐金の運用益は、TIA の様々な事業に使われております。地域の国際化のために役立っています。

### <新規賛助会員の方々>

個人：石田雄人様、中田岳仁様  
杉本等様、君島利一様  
上野勝弘様

～ご入会、ありがとうございます～

○今年度の研修員は、芸人揃いで驚いた。日光の湯元でスキー教室を行ったが、多芸ぶりを發揮。熱唱が続き、なかなか歌が終わらなかった。

○中国・浙江省から浙江省定期協議団が来校し、協議の後、日光で、初めてスキーを履いてクロスカントリーに挑戦した。みんな最初は楽しく滑っていたが、距離が長かったせいか後半ばて気味。一番頑張ったのは、一番年上の葉さん（40代の男性）でした。

※財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人（寄附金の損金算入等の課税特別措置）の認定を受けています。当協会の事業にご賛同下さる企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。

